学道用心集

可、発、菩提心、事。

右。

菩提心、多名一心、也。

龍樹祖師、曰、「唯、観、世間 生滅 無常、心、亦、名、『菩提心』」。

然、乃、暫、依、此心、可、為、「菩提心」、者、歟？

誠、夫、観 無常 時、

吾我之心、不、生、

名利 念、不、起、

恐怖、時光之太速。

所以、行道、救、頭燃、顧眄、身命、不、牢。

所以、精進、慣、翹足。

縦、聞、緊那 迦陵 讃歎之音声、夕 風、払、耳、也。

縦、見、王嬙、西施、美妙之容顔、朝 露、遮、眼、也。

已、離、声色之繋縛、自、合、道心 理致、歟？

往古来今、或、聞、寡聞 士、或、見、少見 人、多、堕、名利 坑、永、失、仏道之命。

可、哀。

可、惜。

不可、不 知。

縦、有、読、権実之妙典、

縦、有、伝、顕密之教籍、未、抛、名利、未、称、「発心」。

有(ある)、云、「『菩提心』、者(とは)、『無上正等覚心』、也。不可(べからず)、拘(こだわる)、名聞 利養」。

有(ある)、云、「一念三千之観解、也」。

有(ある)、云、「一念不生 法門、也」。

有(ある)、云、「入仏界 心、也」。

如是之輩、未、知、「菩提心」、猥(みだりに)、謗(そしる)、菩提心、於、仏道中、遠之遠、矣。

試(ためしに)、顧(かえりみて)、吾我 名利之当心、

融、一念三千之性相、否(いなか)？

証、一念不生之法門、否(いなか)？

唯(ただ)、有(あって)、貪名 愛利之妄念、更(さらに)、無、菩提 道心、可、取(とる)、乎？！

古来 得道 得法之聖人、雖(といえども)、有(ある)、同塵之方便、未、有、名利之邪念。

法執、尚(ですらなお)、無。

況(まして)、世執、乎？！

所謂(いわゆる)、菩提心、者(とは)、前来所云、観 無常 心、便(すなわち)、是(これ)、其(そのうちの)、一、也。

全(まったく)、非(ではない)、狂者 所指、也。

彼 不生 念 三千 相、発心 以後之妙行、也。

不可(べからず)、猥(みだれる)、歟(か)？！

唯(ただ)、暫(しばらく)、忘、吾我、而、潜、修、乃(すなわち)、菩提心之親、也。

所以(ゆえに)、六十二見、以(をもって)、我、為(なす)、本(もと)、也。

若(もし)、起 我見之時、静坐、観察。

今、我 身体 内外、所有、以(をもって)、何(なにを)、為(なす)、本(もと)、乎？

身体髪膚、稟(うけている)、於、父母。

赤白二滴、始終、是(これ)、空(くう)。

所以(ゆえに)、 非(ではない) 、我。

「心意識」智、繫、於、寿命。

出入 一息、畢竟、如何？

所以(ゆえに)、 非(ではない) 、我。

彼此(あれこれ)、無、可(べき)、執、乎？！

迷者、執、之(これ)。

悟者、離、之(これ)。

而、計、無我之我、執、不生之生、不、行、仏道之可行(おこなうべき)、不、断、世情之可断(たつべき)、 厭(きらい)、実法、 求(もとめて) 、妄法、 豈(どうして) 、不、 錯(あやまる) 、乎？！

見聞、正法、必、可、修習、事。

右。

忠臣、献（けんじょうすれば）、一言、数（しばしば）、有、回天之力。

仏祖、旋（めぐらせれば）、一語、莫、不 回心之人。

自（みずからが）、非（ではなければ）、明主、無、容、忠言。

自（みずからが）、非（ではなければ）、抜群、無、容、仏語。

如（ようなもの）、不 回心、者（は）、順流（ながれにしたがってしまって）生死、之（これ）、未、断。

如（ようなものは）、不 容 忠言、治、国、徳政、之（これ）、未、行（おこなう）、矣。

仏道、必、依、行、可、証入、事。

右。
ぞく　いわく　まなべば　すなわち　ろく　ある　そのなか
俗、曰、「学、乃、禄、在、其中」。
すなわち　ある　そのなか
仏、言、「行、乃、証、在、其中」。
かつて　まなぶ　えた　ろく　ものや　えた　もの
未、嘗、得、聞、不、学、而、得、禄、者、不、行、而、得、証、者。
たとえ　あっても　かならず　まつ　こえる
縦、行、有、信法、頓漸之異、必、待、行、兮、超、証、焉。
たとえ　がく　あっても　かならず　つむ　がく　あずかることができる　ろく
縦、学、有、浅深 利鈍之科、必、積、学、兮、預、禄、矣。
これ　すなわち　ひとり　と　べき　よる　と
是、乃、非、独、王者之優、与、不優、可、由、天運之応、与、不応、
か
歟？！
もし　まなぶ　うける　ろく　ものであれば　だれが　つたえる
若、非、学、而、受、禄、者、誰、伝、先王 理乱之道？！
もし　える　ものであれば　だれが
若、非、行、而、得、証、者、誰、了、如来 迷語之法？！
べき
可、識。
たてて　に　える　に　のまえ
立、行、於、迷中、獲、証、於、覚 前。
ときに　はじめて　しって　ながく　たつ
于時、始、知、船筏之昨夢、永、断、藤 蛇之旧見。
これ　ではない
是、非、仏之強為。
ところ　させている
所、令、機之周旋、也。
まして　とは
況、乎、行之所招、者、証、也。
より　そと　くる
自家之宝蔵、不、従、外、来。
の　つかう　とは
証、之、所、使、者、行、也。
どうして　べき
心地、蹤跡、豈、可、回転？！
けれども　しかし　もし　まわす　かえりみる　ば　の　あたる
然、而、若、回、証 眼、兮、顧、行 地、者、無、一翳、之、当、眼、
まさに　みる　ば
将、見、者、白雲、万里。

若(もし)、挙(あげて)、行 足、擬、証 階、者(ば)、無、一塵、之(の)、受(うける)、足、将(まさに)、踏(ふむ)、者(ば)、天地懸隔。

於是(ここで)、退歩、□跳、仏地、矣。(※「□」は「⻊ 孛」という一文字の漢字です。)

天福二、甲午、三月九日、書(かいた)。

用、有所得心、不可、修、仏法、事。

右。

仏法 修行、必(かならず)、稟(うけて)、先達之真訣、不、用(もちいる)、私 用心、歟(か)？！

況(まして)、乎、仏法、以(をもって)、有心、不可(べきではない)、得(える)。

以(をもって)、無心、不可(べきではない)、得(える)。

但(ただ)、操行 心、与(と)、道、不、符合、身心、未、嘗(かつて)、安寧、也。

身心、未、安寧、身心、不、安楽。

身心、不、安楽、証(しょうしても)、道(みち)、荊棘(いばら)、生(しょうじてしまう)、也。

所謂(いわゆる)、操行、与(と)、道(みち)、合、如何(どのように)、行履？

心、不、取捨、心、無、名利、也。

仏法 修行、不、是(これ)、為(ために)、人、修、也。

如(のようなものは)、今世人、仏法 修行 人、其(その)心、与(と)、道(みち)、遠之遠、矣。

若(もし)、人、賞翫、者(ば)、縦(たとえ)、知、非道、乃(すなわち)、修行、之(これ)。

若(もし)、不、恭敬 讃嘆、雖(といえども)、知、「是(これ)、正道」、棄、而、不、修。

痛、哉。

汝等、試(ためしに)、静(しずめて)、心、観察。

此(この)心行、為(なすことができる)、仏法、耶(か)？

非(ではない)、仏法、耶(か)？

可(べきである)、恥(はじいる)。

可(べきである)、恥(はじいる)。

聖眼、所(ところ)、照(てらす)、矣。

夫(それ)、仏法修行、者(とは)、尚(なお)、不、為(ため)、自身。

況(まして)、為(ため)、名聞 利養、修、之(これ)、乎？！

但(ただ)、為(ため)、仏法、可(べきである)、修、之(これ)、也。

諸仏 慈悲、哀愍、衆生、不、為(ため)、自身。

不、為(ため)、他人。

唯(ただ)、仏法之常、也。

不、見？

小虫畜類、養育、其(その)子、身心、艱難、経営、苦辛、畢竟、長養、於(には)、父母、

終(ついに)、無益、耶。

然(けれども)、而(しかし)、念 子之慈悲、小物、尚(ですらなお)、然(そうなのである)。

自(おのずと)、似、諸仏之念 衆生。

諸仏之妙法、不、唯(ただ)、慈悲 一条。

普(あまねく)、現、諸門。

其本(そのもと)、皆、然(そうなのである)、也。

既(すでに)、為(なのである)、仏子。

盍(どうして)、慣(ならわないのか)、仏風、乎？！

行者、不可(べきではない)、念、「為(ため)、自身、而、修、仏法」。

不可(べきではない)、為(ため)、名利、而、修、仏法。

不可(べきではない)、為(ため)、得(える)、果報、而、修、仏法。

不可(べきではない)、為(ため)、得(える)、霊験、而、修、仏法、焉。

但(ただ)、為(ため)、仏法、而、修、仏法。

乃(すなわち)、是(これ)、道(みち)、也。

参禅 学道、可、求、正師、事。

右。

古人、云、「発心、不正、万行、空（むなしく）、施（ほどこしてしまう）」。

誠（まこと）、哉、此（この）言。

行道、可、依（よる）、導師之正、与（と）、邪、歟（か）？！

機、如（のようなものなのである）、良材。

師、似、工匠。

縦（たとえ）、雖（といえども）、為（なのである）、良材、不、得（える）、良工、者（ば）、奇麗（綺麗）、未、彰（あらわれる）。

縦（たとえ）、雖（といえども）、曲木、若（もし）、遇（あう）、好手、者（ば）、妙 功、忽（たちまち）、現。

随（にしたがって）、師 正邪、有（ある）、悟 偽 真。

以（をもって）、之（これ）、可（べきである）、暁（さとる）。

但（ただし）、我国、従（より）、昔、正師、未、在。

何（なに）、以（をもって）、知、之（これ）、然（そうなのである）、乎？

見、言、而、察、也。

如（のようなものである）、酌（くむ）、流（ながれ）、而、討（しらべる）、源（みなもと）。

我朝、古来、諸師、篇集（編集）、書籍、訓（おしえ）、弟子、施（ほどこす）、人、天。

其（その）言、是（これ）、青。

其（その）語、未熟。

未、到、学地之頂。

何（どうして）、及（およぶ）、証階之辺？！

只（ただ）、伝、文言、令（させる）、誦（よむ）、名字。

日夜、数（かぞえて）、他 宝、自（みずからには）、無、半銭 分。

せき　これに
古 責、在、之。
あるいは　させてしまう
或 、 教 、人、求、心外之正覚。
あるいは　させてしまう
或 、 教 、人、願、他土之往生。
で　これ
惑乱、起、于、此。
を　これ
邪念、職、于、此。
たとえ　といえども　あたえる　おしえる　薬の飲み方　なる　これ　はなはだしい　よりも
縦、 雖 、 与 、良薬、不、 教 、銷方、作、病、之、 甚 、於、服毒。
より　あたえる　ようなものなのである
我朝、従、古、 与 良薬之人、 如 、無。

銷 薬 毒之師、未、在。
これ　をもって
是、 以 、生病、難、除。
どうして
老死、 何 、免？！
みな　これ
皆、是、師之咎、也。
まったく　ではない
全 、 非 、機之咎、也。
ゆえん　は
所以、者、何？
である　させてしまう　もと　おう
為 人師 者、 教 、人、捨、本、逐、末。
これ　させてしまう　そう
之、 令 、然、也。
ひとえに　もっぱらにして　みだりに　させてしまう　まねく　おちる
自 解、未 立 以前、 偏 、 専 、己 我之心、 濫 、 教 、他人、招、堕、

邪 境。
べきである
可 、哀。
である　この
為 師之者、未、知、是 邪 惑。
どうして
弟子、何為、覚了、是非、乎？！
べきである
可 、悲。

辺鄙之小邦、仏法、未、弘通。

正師、未、出世。
もし　べきである　たずねる
若、欲、学、無上之仏道、遥、 可 、 訪 、宋土之知識。

逈(はるかに)、可(べきである)、顧(かえりみる)、心外之活路。

不、得(える)、正師、不如(しかず)、不、学。

夫(それ)、正師、者(とは)、不問、年老耆宿。

唯(ただ)、明(あきらめて)、正法、兮、得(える)、正師之印証、也。

文字、不、為(なす)、先(さき)。

解会、不、為(なす)、先(さき)。

有、格外之力量。

有、過節之志気。

不、拘(こだわる)、我見。

不、滞、情 識。

行 解、相応。

是(これ)、乃(すなわち)、正師、也。

参禅、可、知、事。

右。

参禅 学道、者(とは)、一生 大事、也。

不可(べきではない)、忽。

豈(どうして)、卒爾？！

古人、断臂、斬(きる)、指。

神丹之勝躅、也。

昔、仏、捨(すてたし)、家、捐(すてた)、国。

行道之遺蹤、也。

今人、云、「可(べきである)、行(おこなう)、易行之行」。

此(この)言、尤(もっとも)、非(ひ)、也。

太(はなはだ)、不、合、仏道。

若(もし)、専(もっぱらにして)、事(こと)、以(もって)、擬、行、者(ば)、偃臥、猶(なお)、懶、也。

懶、于、一事、懶、于、万事。

好 易之人、自(おのずと)、知、非、道 器、矣。

況(まして)、乎、今世 流布之法、此(これ)、乃(すなわち)、釈迦大師、無量劫、来、難行 苦行、

然後(そのご)、乃(すなわち)、得(えた)、此(この)法、也。

本源、既(すでに)、爾(そうなのである)。

流派、豈(どうして)、可、易、乎？！

好 道之士、莫(なかれ)、志、易行。

若(もし)、求(もとめてしまえば)、易行、定(さだめて)、不、達、実地、必(かならず)、不、到、宝所、者(もの)、歟(か)？！

古人、具、大力量、尚(なお)、言、「難(がたい)、行(おこない)」。

可（べきである）、識。

仏道、深大。

若（もし）、仏道、本自（もとより）、易行、者（ば）、古来、大力量之士、不可、言、「難行、難解」、也。

以（をもって）、今人、比（くらべると）、古人、不及（およばない）、九牛之一毛。

而（しかも）、以（をもって）、此（この）少根薄識、縦（たとえ）、励、力、以（もって）、擬、「難行、能行」、猶（なお）、不可、及、古人之易行 易解、也。

今人之所好、易解 易行之法、者（とは）、其（それ）、是（これ）、何、耶？！

已（すでに）、非（ではない）、世法。

又（また）、非（ではない）、仏法。

未、及（およぶ）、天魔波旬之行。

未、及（およぶ）、外道、二乗之行。

可（べきである）、云、「凡夫 迷妄之甚」、歟（か）？！

縦（たとえ）、雖（といえども）、擬、出離、還（かえって）、是（これ）、無窮之輪廻、也。

観（みると）、其（その）、折（おり）、骨、砕（くだく）、髄、亦（また）、不、難、乎？！

調 心操之事、尤（もっとも）、難。

長斎 梵行、亦（また）、不、難、乎？！

調 身行之事、尤（もっとも）、難。

若（もし）、粉骨、可（べき）、貴、者（ば）、忍、之（これ）、者（もの）、従（より）、昔、雖（といえども）、多、得法之者、惟（これ）、少。

斎行 者、可、貴、者（ば）、従（より）、古、雖（といえども）、多、悟道之者、惟（これ）、少。

是（これ）、乃（すなわち）、調、心、甚（はなはだ）、難、故（ゆえ）、也。

聡明、不、為（なす）、先。

学 解、不、為（なす）、先。

「心意識」、不、為（なす）、先。

「念想観」、不、為(なす)、先。

向来、都(まったく)、不、用、之(これ)、而、調、身心、以(もって)、入、仏道、也。

釈迦老子、云、「観音、入流、亡(なくす)、所知」。

即(すなわち)、之(この)意、也。

動静、二相、了然、不、生。

即(すなわち)、之(これ)、調、也。

若(もし)、以(をもって)、聡明、博解、可、入、仏道、者(ば)、神秀上座、其(その)人、也。

若(もし)、以(をもって)、庸体、卑賤、可、嫌、仏道、者(ば)、曹渓高祖、豈(どうして)、敢(あえてした)、乎？！

伝(をつたえて)、得(える)、仏道、之(の)、法、在、聡明 博解之外。

事(こと)、於(において)、是(ここ)、明、矣。

探、而、可、尋、顧、而、可(べきである)、参。

又(また)、不、嫌、年老耄及。

又(また)、不、嫌、幼稚、壮齢。

趙州、者(は)、六旬余、兮、始(はじめて)、参。

雖(といえども)、然(そうである)、為(なる)、祖席之英雄。

鄭娘、者(は)、十三歳、兮、久(ひさしく)、学。

能(よく)、亦(また)、叢林之抜萃、也。

仏法之威、見(みえるし)、于(に)、加、与(と)、不加、分(わかる)、于(に)、参、与(と)、不参。

或(あるいは)、教家 久習、或(あるいは)、世典 旧才、皆(みな)、可(べきである)、訪(たずねる)、禅門。

其(その)例、是(これ)、多。

南嶽慧思、者(は)、多才 人、也。

尚(なお)、参、達磨。

永嘉玄覚、者(は)、秀逸之士、也。

已(すでに)、参、大鑑。

明、于、法、得、于、道、可、為(なのである)、参師之力。

但(ただし)、参問 宗師之時、聞、師 説、而、勿(なかれ)、同、己見。

若(もし)、同、己見、者(ば)、不、得、師 法、也。

参師聞法之時、浄、身心。

静、眼耳。

唯(ただ)、聴受、師 法、更(さらに)、不、交(まじえる)、余念。

身心如一、而、如(のようにしなさい)、水、瀉(そそぐ)、器(うつわ)。

若(もし)、能(よく)、如是(このよう)、方(まさに)、得、師 法、也。

今、愚魯之輩、或(あるいは)、記、文籍、或(あるいは)、蘊、先 聞、以(もって)、同、師 説。

此(この)時、唯(ただ)、有(あって)、己見、古語、師 言、未、契(かなう)、矣。

或(あるいは)、一類。

己見、為(なして)、先(さき)、而、披、経巻、記持、一、両語、以(もって)、為(なす)、仏法。

後(のちに)、参、明師 宗匠、聞法之時、若(もし)、同、己見、者(ば)、為(なす)、是(ぜ)。

若(もし)、不、合、旧意、者(ば)、為(なす)、非(ひ)。

不、知、捨 邪之方。

豈(どうして)、登、帰 正之道、乎？！

縦(たとえ)、塵沙劫、尚(なお)、為(であろう)、迷者。

尤(もっとも)、可(べきである)、哀。

不、悲、之(これ)、乎？！

参学、可(べきである)、識。

仏道、在、思量、分別、卜度、観想、知、学、慧解、之(の)、外(そとに)、也。

若(もし)、在、此等之際、生来、常、在、此等之中、常、翫(もてあそんでしまう)、此等。

何故(なぜ)、于、今、不、覚、仏道、乎？

学道、者(では)、不可(べきではない)、用、思量分別等之事。

常、帯(おびて)、思量等、以(をもって)、吾 身、而、揀点、於(において)、是(ここ)、明鑑者、也。
其(その)、所入、門、有(あって)、得法之宗匠、悉(きわめつくす)、之(これ)。
非(ではない)、文字 法師之所及、耳(のみ)。

天福、甲午、清明日、書(かいた)。

修行、仏法、欣求、出離、人、須、参禅、事。

右。

仏法、勝（すぐれている）、于（よりも）、諸道。

所以（ゆえに）、人、求、之（これ）。

如来、在世、全（まったく）、無二、教。

全（まったく）、無二、師。

大師、釈尊、唯（ただ）、以（をもって）、無上菩提、誘引、衆生、而已（のみ）。

迦葉、伝、「正法眼蔵」、以来、西天、二十八代、唐土、六代、乃至（ないし）、五家、諸祖、嫡嫡、相承、更（さらに）、無、断絶。

然、則（すなわち）、梁、「普通」中以後、始（はじめて）、自（より）、僧徒、乃至（ないし）、于（まで）、王、臣、抜群者、無、不、帰、矣。

誠（まことに）、夫（それ）、所以（ゆえん）、可（べきである）、愛、勝（すぐれているのを）、者（もの）、可（べきである）、愛、勝（すぐれているのを）、也。

不可、如、葉公、愛、龍、歟？

神丹以東、諸国、文字、教綱、布、海、偏（あまねく）、山。

雖（といえども）、偏（あまねく）、于（に）、山、無、雲心。

雖（といえども）、布、于（に）、海、枯、波心。

愚者、嗜（たしなむ）、之（これ）。

譬（たとえば）、如、撮、魚目、以、執、珠。

迷者、翫（もてあそんでしまう）、之（これ）。

譬（たとえば）、如、蔵、燕石、以、崇、玉。

多、堕、魔 坑、屢（しばしば）、損、自身。

可（べきである）、哀。

辺鄙之境、邪風、易、扇（あおぎ）、正法、難、通（つうじ）。

雖然（けれども）、神丹、一国、已（すでに）、帰、仏正法。

我朝、高麗、等（など）、仏正法、未、弘通。

何為（どうして）？

何為（どうして）？

高麗国、猶（なお）、聞、正法之名。

我朝、未、嘗（かつて）、得、聞。

前来、入唐、諸師、皆（みな）、滞、教綱、故（ゆえ）、也。

雖（といえども）、伝、仏書、如、忘、仏法。

其（その）益、是（これ）、何？

其（その）功、終（ついには）、空（むなしい）。

是（これ）、乃（すなわち）、所以（ゆえん）、不、知、学道之故実、也。

可（べきである）、哀。

徒労、過、一生之人身。

夫（それ）、学、仏道、初入門時、聞、知識、教（おしえ）、如、教（おしえ）、修行。

此（この）時、有（ある）、可（べき）、知、事（こと）。

所謂（いわゆる）、法、転、我。

我、転、法、也。

我能転法之時、我、強、法、弱、也。

法還転我之時、法、強、我、弱、也。

仏法、従来、有、此（この）両節。

非（ではない）、正嫡、者（ば）、未、嘗（かつて）、知、之（これ）。

非（ではない）、衲僧、者（ば）、名（な）、尚（なお）、罕（まれ）、聞。

若（もし）、不、知、此（この）故実、者（もの）、学道、未、弁。

正邪、奚(どうして)、為(する)、分別、焉？！

今 参禅学道 人、自(おのずと)、伝授、此(この)故実。

所以(ゆえに)、不、誤、也。

余門、無、矣。

欣求 仏道之人、非(ではなければ)、参禅、不可、了知、真 道、焉。

禅僧、行履、事。

右。

仏祖、以来、直指、単伝、西乾、四七、東地、六世、不、添、糸毫(わずかも)。

莫(なし)、破、一塵。

衣、及(およんで)、曹渓、法、周(あまねくいきわたった)、沙界。

于時(ときに)、如来 正法眼蔵、盛(さかんである)、于(で)、巨 唐。

其(その)法 為体(様子)、模索、不、得。

求覓、不、得。

見処、亡(なくす)、知。

得 時、超、心。

失、面目、於(で)、黄梅。

断、臂腕、於(で)、少室、得、髄、翻(ひるがえし)、心、兮、買(かい)、風流、設(もうけ)、拝、退歩(たいほし)、

兮、堕(おちる)、便宜。

然(けれども)、而(しかし)、於、心、於、身、無、住、無、着(しゅうちゃくする)、不、留、不、滞。

趙州、僧、問。

「狗子、還(かえって)、有、仏性、也、無？」

趙州、云。

「無」

於、無 字 上、擬量、得、麼？

擁滞、得、麼？

全(まったく)、無、巴鼻。

請(こいねがわくば)、試(ためしに)、撒(てっしなさい)、手。

且(しばらく)、撒(てっして)、手、看(みなさい)。

身心、如何？

行李、如何？

生死、如何？

仏法、如何？

世法、如何？

山河大地、人 畜、家屋、畢竟、如何？

看(みて)、来、看(みて)、去。

自然(しぜんと)、動静、二相、了然、不、生(しょうじる)。

此(この)不生時、不、是(これ)、頑然。

無、人(ひと)、証、之(これ)。

迷、之(これ)、惟(これ)、多。

参学 人、且(しばらく)、半途、始、得。

全途、莫(なかれ)、辞(やめる)。

祈祷。

祈祷。

可、向道、修行、事。

右。

学道 丈夫、先(まず)、須(すべからく)、知、向道之正、不正、也。

夫(それ)、「釈雄」、「調御」、坐、菩提樹下、得、見、明星、忽然、頓(きゅうに)、悟、

無上乗 道。

其(その)所悟 道、非(ではない)、声聞、縁覚等之所能及。

仏、能(よく)、自(おのずと)、悟、仏、伝、於、仏、于、今、不、断絶。

其(その)得悟者、豈(どうして)、非(ではない)、仏、耶？！

所謂(いわゆる)、向道者、了、仏道之涯際、也。

明、仏道之様子、也。

仏道、人人、脚跟下、也。

被(られる)、道、礙(ささえる)、兮、当処、明了。

被(られる)、悟(さとり)、礙(ささえる)、兮、当人、円成、矣。

因(よって)、是(これ)、縦(たとえ)、雖(といえども)、挙、十分之会、猶(なお)、落、一、半之悟、歟？

是(これ)、則(すなわち)、向道之風流、也。

而今、学道之人、未、弁、道之通塞。

強(しいて)、好、見験之有。

不、錯(あやまる)、阿誰？！

捨、父、逃逝、棄、宝、跉跰。

雖(といえども)、為(である)、長者之一子、久(ひさしく)、作(なる)、客作之賤人。

良(まことに)、有(ある)、以(ゆえ)、矣。

夫(それ)、学道者、求、被(されるのを)、道(みちに)、礙(ささえる)、也。

被道礙者、亡（なくす）、悟跡、也。

修行仏道者、先（まず）、須（すべからく）、信、仏道。

信仏道者、須（すべからく）、信、「自己、本（もとより）、在（あって）、道中、不、迷惑、不、妄想、不、顛倒、無、増減、無、誤謬」、也。

生（しょうじて）、如是（このような）、信、明（あきらめて）、如是（このような）、道、依（よって）、而、行（おこないなさい）、之（これ）。

乃（すなわち）、学道之本基、也。

為（なるは）、其（その）風規、坐断、意根、兮、令（させる）、不、向、知解之路、也。

是（これ）、乃（すなわち）、誘引初心之方便、也。

其（その）後、脱落、于（を）、身心、放下、于（を）、迷悟、第二様子、也。

大凡（おおよそ）、信 自己 在 仏道之人、最難、得、也。

若（もし）、正信、「在、道」、自然（しぜんと）、了、大道之通塞、知、迷悟之職由、也。

人、試（ためしに）、坐断、意根、十之八、九、忽然、得、見道、也。

直下、承当、事。

右。

決択、身心、自（おのずと）、有、両般。

参師聞法、与（と）、功夫坐断、矣。

聞法、者（は）、遊化、于（を）、心識。

坐禅、者（は）、左右、于（を）、行、証。

是（これ）、以（をもって）、入、於、仏道、尚（なお）、不可（べきではない）、捨（すてて）、一、而、承当。

夫（それ）、人、皆（みな）、有（ある）、身心。

作、必（かならず）、有（ある）、強弱。

勇猛、与（と）、昧劣。

也（または）、動、也（または）、容、以（をもって）、此（この）身心、直（じかに）、証、於（を）、仏。

是（これ）、承当、也。

所謂（いわゆる）、不、回転、従来 身心。

但（ただ）、随（したがって）、他 証、去（さるのを）、名（なづけ）、「直下」、也、名（なづける）、「承当」、也。

唯（ただ）、随（したがって）、他、去（さる）。

所以（ゆえに）、非（ではない）、旧見、也。

唯（ただ）、承当、去。

所以（ゆえに）、非（ではない）、新 巣、也。